医療創生大学

健康医療科学部 理学療法学科 カリキュラム

地元いわき市をはじめ、地域社会に貢献できる理学療法士

ディプロマポリシー

DP1. 広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。
DP2. 地域に住む人々の健康・医療課題を的確に把握し、疾病や障害を予防することや、疾病や障害から生ずる身体機能および能力の回復・改善を促すことを通して、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。
DP3. 健康・医療に関わる課題を解決するために、理学療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた理学療法技術を駆使して日常生活活動に関わる基本動作や身体能力の維持・改善に対する支援ができる。
DP4. 健康・医療に関わる理学療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的かつ能動的な学修ができる。

カリキュラム

		初年次教育科目	リテラシー教育科目	外国語教育科目	健康・スポーツ教育科目	一般教養科目	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎理学療法学	理学療法評価学	理学療法治療学	地域理学療法学	臨床実習
4年	後期			○外国語 英語C2						卒業研究Ⅱ		理学療法セミナーⅡ		
4年	前期			英語C1						理学療法の教育と管理	生体応用計測演習	理学療法セミナーⅠ	地域理学療法マネジメント論	臨床実習Ⅱ
3年	後期									リスク管理論 卒業研究Ⅰ		徒手理学療法学 スポーツ理学療法学 神経機能理学療法学演習Ⅱ 内部障害理学療法学演習Ⅱ		臨床実習Ⅰ 評価学実習
3年	前期						臨床運動学演習	チーム医療と医療安全			理学療法評価学演習Ⅴ 臨床推論演習	老年期理学療法学 高次脳機能治療学 運動器理学療法学演習 神経機能理学療法学演習Ⅰ 内部障害理学療法学演習Ⅰ 発達と理学療法学演習	地域理学療法学 地域理学療法学演習	
2年	後期			中国語2 韓国語2			薬理学 救急処置法 小児科学 老年医学	公衆衛生学		リハビリテーション工学演習	理学療法評価学演習Ⅳ	日常生活活動分析学 日常生活活動分析学演習 運動器理学療法学 神経機能理学療法学 内部障害理学療法学 発達と理学療法学	生活環境と理学療法	地域包括ケアシステム実習
2年	前期			中国語1 韓国語1			人体の構造演習 人体の機能演習 運動学演習 心理生理学 病理学 神経内科学 整形外科学 精神医学 臨床心理学			健康医療科学研究方法論2	理学療法評価学演習Ⅱ 理学療法評価学演習Ⅲ 生体応用計測論	物理療法学 臨床物理療法学演習 運動療法学総論 義肢装具学演習	地域保健と理学療法	
1年	後期			英語A2 英語B2	健康・スポーツ2	○人文科学分野 倫理学の世界 芸術の世界 文学の世界 日本の歴史と文化 ○社会科学分野 暮らしのなかの憲法 経営学入門 ジェンダー論 政治学入門 ○自然科学分野 生命の科学 食品の科学 地球環境の科学	人体の構造Ⅱ 人体の機能Ⅱ 運動学 人間発達学 リハビリテーション医学	社会福祉学概論	理学療法学基礎理論 健康医療科学研究方法論1	理学療法評価学 理学療法評価学演習Ⅰ		地域ボランティア活動論	見学実習
1年	前期	フレッシャーズセミナー コンピュータリテラシー 日本語リテラシー		英語A1 英語B1	健康・スポーツ1 健康の科学	哲学の世界 ことばの科学 心理学概論 世界の歴史と文化 法学入門 経済学入門 社会学入門 災害からの復興 自然科学のあゆみ 健康と薬 統計のしくみ	人体の構造Ⅰ 人体の機能Ⅰ	リハビリテーション概論	理学療法学概論					

全学共通教育科目
専門基礎科目
専門教育科目
専門科目

カリキュラムポリシー

CP1. 1年次から4年次に、全学共通教育科目の初年次教育科目、リテラシー教育科目、一般教養科目、外国語教育科目、健康・スポーツ教育科目を配置し、理学療法士の担い手としてふさわしい幅広い人間的な視野と豊かな教養を身につける。
CP2. 専門基礎科目として、1、2年次を中心に『人体の構造と機能及び心身の発達』、『疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進』、『保健医療福祉とリハビリテーションの理念』を配置し、必要な基本的知識を修得する。
CP3. 専門科目は、基礎理学療法学、理学療法評価学、理学療法治療学、地域理学療法学、臨床実習の5つのカテゴリーにおいて学修し、身につける力は以下の通りである。
(a) 1年次から4年次に、『基礎理学療法学』を置く。基礎理学療法学では、理学療法の歴史的変遷や理学療法を支える理論および研究に関わる科目を配置し、科学的根拠に基づく実践の素地を修得する。
(b) 1年次から4年次に、『理学療法評価学』を置く。理学療法評価学では、人間の諸機能をはかる意義とその具体的方法について学修するとともに、客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。さらに、生体応用計測論、生体応用計測演習を配置し、理学療法学の進展に対応するための素地となる「人間をはかる」技術を修得する。
(c) 2年次から4年次に、『理学療法治療学』を置く。理学療法治療学では、理学療法士が用いるアプローチの理論と実際について学修する。また、4年次に理学療法セミナーⅠ、理学療法セミナーⅡを配置し、1年次から4年次までの学修を統合する。
(d) 1年次から4年次に、『地域理学療法学』を置く。地域理学療法学では、地域におけるボランティア活動や介護予防等の保健事業に求められる知識、生活環境の支援方法について修得する。3年次からは、より専門的な内容で地域理学療法学と地域理学療法学演習を学修し、地域・医療に関わる課題を把握し、地域貢献できる能力と態度を養う。
(e) 1年次から4年次に、『臨床実習』を置く。臨床実習では、早期に、チーム医療の臨床現場を見学し、理学療法士としての基本的な態度に加え他職種と協働するために求められる倫理観やチームメンバーとしての態度を身につける。
また、2年次の地域包括ケアシステム実習は、地域包括ケアシステムに携わる理学療法士の実際に触れながら、地域課題解決に向けた取り組みについて理解を深める。3年次、4年次では、実習指導者の指導のもとで一連の過程を学び、科学的根拠に基づく理学療法の素地を修得する。

アドミッションポリシー

AP1. 高等学校の教育課程を幅広く修得しており、心身ともに健全である人
AP2. 理学療法士の社会的使命や役割に興味関心があり、他の人たちへの思いやりと熱意をもって社会貢献しようとする意欲のある人
AP3. ものごとに対して主体性を持って、積極的かつ誠実に取り組む姿勢が身についている人
AP4. 社会の様々な問題に対して、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、考えた結果を説明することができる人
AP5. 高等学校までの履修内容のうち、「国語」と「英語」を通して、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基本的内容を身につけている人
AP6. 高等学校までの履修内容のうち、理学療法学の基礎として「数学」と「理科」の基本的内容を身につけている人
AP7. 学校や地域において、グループ学習、課外活動、ボランティア活動などの経験があり、他の人たちと協力して課題をやり遂げることができる人